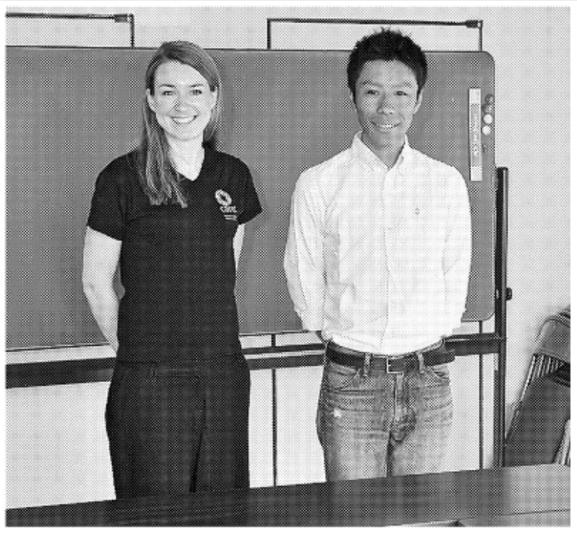
中学生に自主学習の場

宮古市の市民団体「くらしのサポーターズ」（波岡美紀代表理事）は25日から7月30日までの毎週土曜、中学生を対象にした自主学習の場「Challenge（チャレンジ）！　みんなで学習会」を無料で開く。初日は英国人のロイス・ロビンソンさん（27）による英会話教室もある。

宮古・くらしのサポーターズ



英会話講師のロイス・ロビンソンさん（左）とボランティア講師の長洞宇内さん＝宮古市

あすから無料開放　英会話教室初日に企画

学習会は、震災の影響で「集中して勉強できる場所が少ない」との声に応え開設。待機しているボランティア講師の長洞宇内（うない）さん（24）に疑問点を聞くこともできる。

会場は同市保久田の市中央公民館分館。毎回午後1時、2時、3時開始の3時限（各50分）。各時限単位の出入りは自由。事前の申し込みは不要。25日の英会話教室は1時限目に開く。

波岡代表理事は「少しでも良い学習環境を提供したい。この機会を活用して」と呼び掛ける。

問い合わせは、同サポーターズが開く「くらしの相談室」（0193・64・2400、火―土曜の午前10時～午後3時）へ。

被災地から

TUBE勇気お届け

釜石小を訪れ音楽教室

歌声で児童を勇気づける前田亘輝さん（中央）＝釜石市

人気バンド、TUBEは23日、釜石市大渡町の釜石小（加藤孔子校長、児童140人）を訪れ、特別授業を行った。前向きな歌とメロディーが児童を勇気づけた。

ボーカルの前田亘輝さんらメンバー4人が訪問。全校児童を前に長調と短調の違いや、手足を使ったリズムの取り方を指導。児童はメンバーが演奏する楽器の音に合わせ元気に手拍子を送り「セッション」を楽しんだ。

授業には前田さんの友人で、東京や大阪でフラワースクールを主宰する赤井勝さんも参加。児童と一緒に花を生け、鮮やかなキクやヒマワリが会場を彩った。前田さんは「みんなもこのヒマワリのように明るく元気な学校生活を送ってほしい」と励ました。

最後は全員でTUBEが復興支援のために作った「RESTART（リスタート）」を合唱。児童会長の佐久間栄己（はるき）君（6年）が「一緒に歌い元気をもらった。これからもこの元気を支えに頑張っていきたい」とあいさつした。

授業は、人材育成を目的とする二十一世紀倶楽部（東京）が主催した「夢の課外授業・希望プロジェクト」の一環。

再開しました

三浦精肉店（大槌町）

新鮮な品提供したい

「ここに店を構えるとは夢にも思わなかった」。大槌町吉里吉里の三浦精肉店店主、三浦秀次さん（46）はこうつぶやく。店の目の前には、何もなかったかのように静かな海が広がる。

父から受け継いだ同町大町の商店街にあった店舗兼自宅は全壊。知人が営む民宿の敷地内で20日、店を再開した。

食堂や飲食店のほか、高齢者のため一般家庭にも配達してきた。店の自慢は県産の豚肉。特に柔らかいロースは子どもやお年寄りにも人気の商品だった。

「子どもや孫にまた食べさせたい」。震災後、避難生活を送る住民から掛けられた言葉が背中を押した。

自身も親戚宅に身を寄せる三浦さんは「避難所では生鮮食品はあまり食べられない。新鮮な肉を提供して住民に喜んでもらいたい」と、当分は特別価格での販売を決めた。

再開に合わせ、手書きのチラシを配った。「皆さまと共に復興への道を歩んで参ります」。これからも地域の食卓を守る決意だ。

「新鮮な食品を届けたい」と再開したばかりの店舗で接客する三浦秀次さん（左）

営業時間は午前8時半から午後6時まで。電話は三浦さん（090・6855・6451）へ。

（随時掲載します）

「飛鳥Ⅱ」に乗ってみて

大船渡市・来月催し

大船渡市は、7月27日に大船渡港に1泊寄港する豪華客船「飛鳥Ⅱ」（郵船クルーズ運航、5万142トン）の乗船体験会参加者を募集している。27日午後1～3時に船内見学とショーの観賞を予定している。

参加無料、募集定員400人。大船渡、陸前高田、住田の3市町の小学生以上を対象とし、中学生以下は保護者同伴。応募多数の場合は抽選となる。

往復はがき1枚で4人まで応募可能。往信はがきの裏面に「飛鳥Ⅱ乗船会希望」を明記し▽郵便番号・住所▽代表者氏名▽電話番号▽希望者全員の郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号―を記入。返信はがきの表面に郵便番号・住所・代表者氏名を書いて郵送する。

7月1日必着。郵送先は〒022―8501、住所記入不要で港湾経済課へ。

歌うよう美しい響き

ドイツの弦楽四重奏団　大船渡高でコンサート

ライプツィヒ弦楽四重奏団のメンバーから帽子を贈られ、笑顔で受け取る大船渡高の生徒＝大船渡市

世界的に有名なドイツのライプツィヒ弦楽四重奏団は23日、大船渡市猪川町の大船渡高（鈴木晃彦校長、生徒676人）を訪れコンサートを開いた。3年生211人と市民約10人が鑑賞。同四重奏団はドボルザークなどの曲や童謡「赤とんぼ」などを演奏し、美しい響きが聴衆を魅了した。四重奏曲に編曲した同校の校歌もサプライズで演奏。生徒たちは驚きながら聞き入り、演奏後には大きな拍手を送った。

第1バイオリンのシュテファン・アルツベルガーさんは「私たちも心の痛みを感じている。きょうの演奏が皆さんの心の癒やしとなることを祈っている」とあいさつ。終演後には生徒たちに帽子などを贈った。

吹奏楽部の熊谷幸子さん（3年）は「感動した。弾いているのに歌っているようですごかった」と目を輝かせた。

コンサートはドイツ大使館主催。22日から26日まで本県のほか宮城、福島県でも開く。

シイタケ生産仲間に見舞金

洋野町産業振興協

洋野町しいたけ産業振興協議会（高屋敷幸雄会長）は22日、東日本大震災で被災した町内のシイタケ生産者に見舞金2万円を送り、激励した。

高屋敷会長が同町種市の松本由松さん（79）宅を訪れ、見舞金を手渡した。高屋敷会長は「大きな被害を受けながらも再開に向けて頑張っている姿はわれわれの力になる」と期待を込めた。

松本さんのほだ木は2万本以上が被災したが、今年も町や県の品評会で入賞するなど県品評会で町の団体11連覇に貢献した。「皆さんの気持ちに感謝する。被害を受けた分を取り戻せるよう頑張りたい」と決意を話した。

松本由松さん（右）に見舞金を送る高屋敷幸雄会長

オーストラリアから善意

陸前高田出身デイドさん　古里応援へ300万円

陸前高田市出身で、オーストラリア在住のデイド（旧姓吉田）久美子さん（53）は23日、陸前高田市教委を訪れ、同国で集めた義援金約300万円を送った。

金賢治教育次長に支援イベントの写真を紹介する久美子・デイドさん（左）＝陸前高田市

デイドさんと姉の小野寺文子さん（55）が、金賢治教育次長に義援金の目録を手渡した。

デイドさんは「陸前高田市の将来を背負う子どもたちを支援したい。現地ではたくさんの人が応援している」と述べた。金教育次長は「教員や子どもたちに皆さんの思いを伝えます。大変ありがたい」と感謝した。

デイドさんは末崎中や唐丹中で音楽教師を務め、結婚を機に豪州南部のフィリップ島に移り住んだ。子どもたちへの支援を呼び掛け、勤務先のすし店とアドベンチャー施設で支援イベントを展開。現地では、新聞やテレビで陸前高田市の被害状況が報道されており、多くの支援が集まったという。

陸前高田など2市に軽ワゴン

郵政福祉東北本部

郵政福祉東北地方本部（田中悟本部長）は23日、陸前高田市と大船渡市に軽ワゴン車各1台を寄贈した。

田中本部長と県南部地区郵便局長会の加藤隆一曽慶郵便局長が両戸羽太市長（左）にレプリカの鍵を手渡す加藤隆一局長（中央）と田中悟本部長＝陸前高田市

市役所を訪問。陸前高田市の仮庁舎を訪れた田中本部長は「物資の搬送など車を使う機会が多いと思う。十分に活用してほしい」と述べた。

加藤局長からレプリカの鍵を受け取った戸羽太市長は「いろんな方の支援や応援が市民の励みになる」と感謝した。

同本部は、同局長会を通じ支援先に陸前高田市と大船渡市を選んだ。

大船渡の漁協に「助け船」を贈る

奥州の朝日田さん

奥州市水沢区の朝日田幸夫さん（78）は22日、東日本大震災で被害を受けた大船渡市の盛川漁協（佐藤由也組合長）に船を寄贈した。同漁協は5隻あった船を津波で流され、「助け船」に感謝する。

寄贈したのは全長約5㍍の船と20馬力の船外機。朝日田さんは10年ほど前に購入し、北上川でレジャー用、洪水時の緊急用として使っていた。北里大海洋生命科学部教授の長男卓さんが仲介した。

朝日田さんは「盛川でも何度かアユ釣りをした。自分が釣りに来る川の漁協に役立つことは願ってもないこと」と語る。

佐藤組合長は「この状況下で助け船を出してもらった。秋のサケ漁に使いたいのでありがたい」と感謝する。

船を寄贈した朝日田幸夫さん（左）と佐藤由也組合長＝大船渡市

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。